

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 6 | 身体拘束については、内部研修を年1回受け、職員全体で身体拘束をしないケアについての意識を高く持ちながら職務についているが、25年度の研修で「言葉による拘束」と言うものを学び、知らず知らず使っている言葉が、拘束に当たる場合もあるのではないかと気が付いた。 | 今まで通りの、身体拘束をしないケアは継続しながらも、普段何気なく会話している言葉の中にも、どういう物が拘束に当たるのかと言う知識を深める。そしてより高度なケアに取り組むよう努めていく。 | どういう言葉や行動が拘束に当たるということを明確にして文章化して、全員が見える場所に掲示するとともに、ミーティングや朝礼などを利用して勉強会を行い、職員の意識に内容を定着させることで、ケアに生かしていく。 | 12 か月 |
| 2 | 33 | 昨年度に、ホームでの看取りを希望されるご家族様と、主治医、職員との間で今後の方針を決め同意書を頂くことになった。職員にはミーティングでご家族様の意向を伝え、看取りに対してのカンファレンスを行ったが、初めての試みで看取りへの疑問・不安な面等が出てきている。 | 状態の変化に合わせて、主治医やご家族様と密に連絡を取り合い、ご本人様やご家族様が安心して迎えられるように努めていく。 | ご家族様の来所時には状態に変化がなくても報告し、毎月のお便りにも記載していく。主治医へは訪問診療時に状態報告を行い、こまめに指示を仰ぐ。職員同士の話し合いや勉強会、認知症ケアの研修に積極的に参加し、何度も情報交換を行うことで、意見の行き違いが生じないよう対応する。 | 12 か月 |
| 3 | 35 | 災害対策については、今までも、火災時と地震時を合わせて年5回の避難訓練を実施し、そのうちの1回は地域合同の避難訓練を行って参加者も増えている。これからは、従来の避難経路の見直しや、避難訓練のマンネリ化防止についての対策を考えていく。 | 東日本大震災のように、思いがけない災害に見舞われた時にも、職員がしっかりと対応できる知識と基礎作りを行っていく。 | 災害の影響でメインの避難経路が使用不能になった場合にも、他の場所から安全に避難出来る様、利用者様の現状に合わせて避難経路を整備する。また、自主防災委員会を中心にあさがお福祉BCPの完成を目指し、災害対策の基礎を強めていく。 | 12 か月 |
| 4 | | | | | か月 |
| 5 | | | | | か月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。